

## 高橋秀男先生を偲んで

千葉 悟志\*

平成31年1月16日に高橋秀男先生が13日にご逝去されたとの一報をいただき、大学の先輩であつたご子息の博幸さんと連絡をとったところ、内々でのご葬儀により旅立たれたとのことでした。

高橋先生は長野県大町市に生まれ、大町山岳博物館（以下、愛称の「山博」）創立の2年後にあたる昭和28年から奉職され、昭和40年からは神奈川県立博物館（現 神奈川県立生命の星・地球博物館）で活躍されました。このため、山博での在職は比較的短いのですが、この間に先生は同郷の故中村武久先生（東京農業大学名誉教授）、山岳博物館館長でいらした故平林国男氏とともに山博の礎を築かれました。

本稿では山博時代の高橋先生のご功績と先生のお人柄、また職場の先輩後輩の間柄であつた父から聞いたエピソードを少しご紹介させていただきます。先生と言えば、植物でのご功績が広く知られているところですが、山博在職中にはライチョウの生態解明においても大きく貢献されました。

昭和36年5月、高橋先生をはじめとした山博職員、山博調査員、信州大学教育学部生態研究会員らからなる「北アルプス動物生態研究グループ」が故羽田健三信州大学名誉教授の主導のもと、爺ヶ岳でライチョウ調査を実施しました。これは、日本で初めてと言える本格的なライチョウ調査のはじまりで、この調査には延べ860名が動員されたそうです。

昭和38年3月には、高橋先生、平林国男氏、父・千葉彬司の3名に、通信連絡を担当する自衛隊普通科連隊2名のほか第一次支援隊を加えた計12名が爺ヶ岳に向けて出発し、40日間わたるライチョウの冬期生態観察が成し遂げられました。この時、隊長として指揮を執られたのが高橋先生でした。

現在、研究者などがライチョウの解説の際に、当たり前のようにお話しする内容の多くがこの2期にわたる調査がもとになっていて、高橋先生のご功績のひとつと言えます。

実は、夏期調査のときに採集された高山植物が今でも山岳博物館の標本庫に残されています。記憶を

辿るに、先生が長野県植物誌にかかる調査で大町にお越しの際、学生だった私は幸運にも調査に同行させていただく機会を得ました。その際、先生は「山博在職中に手掛けることがかなわなかった未整理の標本が気がかりで、時間の許す限り山博に立ち寄り整理をしている」とおっしゃられていました。それらは現在、20年余りの時を経て、ようやく平成28年より登録・配架がはじまり、31年度中には一応の目途がつく予定だっただけに生前にご報告、またご覧いただけなかったことが悔やまれます。

このほかにも先生には公私にわたりたくさんのご指導、またご支援を賜りました。

東京で学生時代を過ごしていたころのことです、白馬岳の調査に同行させていただく機会を与えていただき、その翌年にも同行させていただきました。その成果は先生の「長野県産ゴマノハグサ科—コゴメグサ属とゴマノハグサ属の検討」に見ることができます。勉強のために同行させていただいたにもかかわらず、先生から数冊の高価な植物図鑑をプレゼントしていただいたことは、私が植物に関連した職に就くことを期待していただいたことだったのでしょうか。

また、植物レプリカ製作で神津島に行かれる際にも二度にわたり同行を許可していただき、コウヅシマヤマトツジについて解説いただき、それはのちに「ハコネコメツジとオオシマトツジの自然雑種について」として発表されました。

その後は山博で平成13年に白山で行ったライチョウ生息可能地域調査で植生調査のご指導をいただき、その際、先生はフジアザミの形態に着目され、のちに「テマリフジアザミ—白山産フジアザミの一型」として発表されました。平成14年にも蓮華岳で行ったライチョウ生息域内における植生調査でのご指導いただきました。

このように、学生時代は同郷の後輩の息子として事あるごとに気にかけていただき、私が山博に就職してからは元山博の職員として後進の育成をすることが故郷への恩返しとお考えになられ、特段に目を掛けていただけたのかもしれません。

山博創立時には地元の青年たちがボランティアで活動にかかわり、博物館から出勤あるいは資料収集

\* 市立大町山岳博物館

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

に出かけるということもあったそうで、まさに寝食を共にされたと聞いております。ご尽力いただきました先輩方のなかにはすでに他界されている方もいらっしゃると思いますが、父からはつぎのようなエピソードを聞いております。

高橋先生が山博に奉職されていたころ、大町は黒部ダム建設で活気に満ち、飲み屋で居合わせた作業を取り仕切る間組の親方との飲み比べで見事、高橋先生が勝利したこと、飲みに行った帰りにかくれんぼをして、翌朝「なんで隠れているのに俺を見つけてこないで、みな帰ったんだ」と怒って博物館にやって来たお仲間のこと、冬期ライチョウ調査の基

地とした種池山荘で、成功を祈願したカクテルパーティーを催し、翌朝、全員が寝坊をして定時の通信をしなかったことから一時、遭難騒ぎとなったこと、そのほかにも色々なエピソードを聞きました。

先生は今、苦楽を共にしたかつてのお仲間と再会されているかもしれません。

ここ何年も先生にお会いすることはなく、時が過ぎ、近況をご報告申し上げないままにしてみました。先生、先生のこれまでのご恩に報いるため、今後も長野県植物研究会また山岳博物館の発展に貢献できるようお誓い申し上げ、謹んで哀悼の誠を捧げます。